

## 昨年以上にジューシー

～かまくらりんご掘り起し～

JA直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の会員で構成する「かまくらりんごの会」は4月20日、黒石市の沖揚平地区で雪の中に埋め、冬越しさせたりんごを掘り起こしました。会員10人が参加し、雪の中からりんご59箱（20㎏／1箱）を掘り起こしました。

同会の工藤朋恵会長は「昨年以上にジューシーな『かまくらりんご』ができた。多くの人に購入してもらい、食べてほしい」と笑顔で話しました。

4月24日には即売会を開き、大勢の来場者で賑わいました。りんごを購入した来場者は「りんごが好きで毎年買いに来ている。これからも、かまくらりんごを続けてほしい」と話しました。



かまくらりんごを掘り起こした会員



かまくらりんごの即売会

## 摘蕾作業と栽培管理の徹底を

～第1回桃現地講習会～

もも生産協議会（倉内信一会長）は4月20日、平川市の園地で桃の現地講習会を開きました。生産者約30人が参加し、栽培管理や摘蕾作業を確認しました。

黒石基幹グリーンセンターの藤田俊也営農指導主任が栽培管理について説明。「放射冷却や寒気による影響で蕾や花などの細胞が凍結し、凍霜害が発生する。霜注意報には注意し、凍霜害対策をしてほしい」と呼び掛けました。せん孔細菌病については、依然として菌密度が高い状況にあり、薬剤防除のみで防ぐのは難しいため必ず耕種的防除も行うよう説明。また、摘蕾作業は品種ごとの方法を説明し、実際に作業を行いました。

生産者は「講習会には始めて参加した。摘蕾作業の方法を確認でき、とても参考になった」と話しました。



摘蕾作業の説明を聞く生産者（右）